

- 問1 普通免許を取得して3ヶ月を経過した後、準中型免許を取得したが、普通自動車を運転するときは初心者マークをつけなくてもよい。
- 問2 車の乗車定員は、13歳未満の子ども3人で大人2人として計算する。
- 問3 国内の貨物輸送の約9割は、トラック輸送が担っており、物流の主役であるトラック輸送は重要な社会的役割を担っている。
- 問4 トレーラスイング現象とは、トレーラの後輪がロックした場合などに、トレーラがトラクタに対して直角に折れる現象である。
- 問5 コンテナの緊締装置（ツイストロック等）は、荷台の前後に4箇所装備されているが、走行時に全てをロックしていないと、道路交通法違反となる。
- 問6 最大積載量2、5t車まで、普通免許で運転できる。
- 問7 事業者が行う事故惹起運転者に対する特別な指導については、当該交通事故を引き起こした後、再度トラックに乗務する前に実施するが、やむを得ない事情がある場合には、再度乗務を開始した後2ヶ月以内に実施する。
- 問8 運行管理者は法令の規定により、運転者に対して点呼を行い、報告を求め、確認を行い、指示を与え、並びに記録し、及びその記録を保存し、並びに国土交通大臣が告示で定めるアルコール検知器を備え置くこと。
- 問9 車長の長いトラックは、乗用車よりもホイールベースが長いので、内輪差が小さくなり、巻き込み事故が起こりやすい。
- 問10 高速走行時に、タイヤの空気圧が高過ぎると、スタンディングウエーブ現象が発生しやすい。

問 1 1 勤務終了後、継続 8 時間以上の休息期間を与えることになっているが、業務の必要上困難な場合には、1 日において 1 回当たり継続 4 時間以上、合計 1 0 時間以上であれば、休息期間を分割することができる。

問 1 2 速度が 3 倍になれば、衝撃力は 9 倍になる。

問 1 3 貨物自動車運送事業に従事する運転者の 1 日についての拘束時間は、1 2 時間を超えないものとし、拘束時間を延長する場合であっても最大拘束時間は、1 5 時間とする。

問 1 4 自動車を後退させるときは、シートベルトの着用免除規定に該当する。

問 1 5 道路標識には、本標識と補助標識があり、本標識は、規制、指示、警戒、案内の 4 種類に分類されている。

問 1 6 一般道路において、緊急自動車に進路を譲るときは、バス専用通行帯に入ってもよい。

問 1 7 貨物の配達のために必要で、警察署長の許可を受けた車は、歩行者用道路を通行できる。

問 1 8 時速 1 2 0 Km で走行の特急電車が非常ブレーキをかけて停止するまでは、5 5 0 m を要する。

問 1 9 運転免許停止中の運転は、無免許運転には該当しない。

問 2 0 フェード現象やペーパーロック現象の多くは、長い上り坂で起きている。

問 2 1 連続 4 時間運転した場合は、30 分以上の非運転時間をとらなければならない。

問 2 2 乾いた舗装道路と、濡れた未舗装道路の摩擦係数は、ほぼ同じである。

問 2 3 明順応より、暗順応のほうが、もとの視力に回復するまで時間がかかる。

問 2 4 交差点の中で警察官が、「進め」の手信号を出していたが、信号機が赤色の灯火だったので交差点の手前で一時停止をした。

問 2 5 自動車運送事業の用に供する自動車の車検証は、当該自動車又は当該自動車の所属する営業所に備え付けなければ、運行の用に供してはならない。

問 2 6 トラックによる人身事故の約半数は、追突事故である。

問 2 7 貨物自動車運送事業に携わる輸送者（運転者）は、運行前、途中、運行終了時には、点呼を受け、報告することが義務づけられている。

問 2 8 デジタルタコグラフとは、時間、距離、速度等のデータのほか、エンジンの回転数、アイドリング時間等のデータも記録される車載器である。

問 2 9 道路交通法の目的は、道路における危険を防止し、安全円滑を図り、交通公害などの道路の交通によって起きる障害を防止することである。

問 3 0 自動車を運転する場合、交通ルールを守ることはもちろんだが、他者（車）を思いやる気持ち、譲り合う気持ちが、事故防止の重要ポイントとなる。